

第3回トレーサビリティテストについて

事務局作成

2010.04.08

、実施目的

食品に関わる事業者は、食の安全・安心を確保するため、トレーサビリティの仕組みを構築しています。しかしトレーサビリティの仕組みが正常に働くかどうかは実際に事故が起きてみないと分かりません。そこで日本トレーサビリティ協会では実際に事故が起こったことを想定し、商品の情報が本当にトレースできるかどうか（トレーサビリティが実際に効いているか）を検証するため、トレーサビリティテストを実施いたします。

、参加企業の推移

08年に初めてトレーサビリティテストが実施され、参加した企業・団体は57社、09年度に実施しました第2回トレーサビリティテストの参加企業・団体数は71社に増加いたしました。今年は100社を超える企業様にトレーサビリティテストに参加していただく予定となっています。

、実施日

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| 1) 農産、水産、畜産、米、卵 | 6月15日実施 |
| 2) メーカーとしての加工食品（農産加工、水産加工、畜産加工含む） | 6月22日 |
| 3) 卸としての加工食品（デリカベンダー含む） | 6月22日 |
- 各テストのフォームがあります。

、基点について

基点のルール：生鮮食品（センター）

加工食品（店舗基点）

宅配商品（センター納品時に基点情報を都度確認し実施する。）

、商品情報発信

トレーサビリティテスト当日の10時に対象商品の情報をメールにて配信します。

選定商品は可能な限り取扱いの多い商品5品の中から2品を選択して、情報を発信します。情報は商品名（JANコード）、賞味期限（製造日）、製造者固有記号、その他

、トレーサビリティテスト報告について

参加企業様は情報がきたら、調査の開始時間を記入の上、項目の内容を調査し報告書に記入し、終了時間を記入して、日本トレーサビリティ協会事務局までメール、またはFAXで返信する。

評価するポイントとしては、テストにかかった時間、情報として必要な項目数、その項目の正確さ、の3点について精査いたします。項目の正確さを担保する為に帳票の提出を求めることとする。

、トレーサビリティテストの結果は報告書としてまとめて参加企業・団体様へお渡しいたしますので、ご活用ください。

、表彰制度について

トレーサビリティテストを受けることで、各事業者のトレーサビリティの仕組みを客観的に評価することができるようになります。日本トレーサビリティ協会ではトレーサビリティテストの結果が優秀な企業・団体を表彰します。表彰は8月24日の日本トレーサビリティ協会が開催する夏季セミナーの冒頭で行います。

、参加申込書は別紙をご覧ください。